

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成28年1月21日 (2016.1.21)

【公表番号】特表2015-500805(P2015-500805A)

【公表日】平成27年1月8日 (2015.1.8)

【年通号数】公開・登録公報2015-002

【出願番号】特願2014-544885(P2014-544885)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

A 6 1 P 25/16 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/7088 (2006.01)

A 6 1 K 31/4188 (2006.01)

A 6 1 K 31/4178 (2006.01)

A 6 1 K 31/424 (2006.01)

A 6 1 K 31/429 (2006.01)

A 6 1 K 31/4985 (2006.01)

A 6 1 K 31/542 (2006.01)

A 6 1 K 31/5377 (2006.01)

A 6 1 K 31/4439 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 N 9/99 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 25/28

A 6 1 P 25/16

A 6 1 K 37/02

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 K 31/7088

A 6 1 K 31/4188

A 6 1 K 31/4178

A 6 1 K 31/424

A 6 1 K 31/429

A 6 1 K 31/4985

A 6 1 K 31/542

A 6 1 K 31/5377

A 6 1 K 31/4439

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 N 9/99

【手続補正書】

【提出日】平成27年11月26日 (2015.11.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

個体における認知を強化する方法であって、二本鎖RNA-タンパク質依存性キナーゼの阻害剤の治療有効量を前記個体に与える段階を含む、方法。

【請求項 2】

前記阻害剤が、タンパク質、核酸または小分子を含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記阻害剤が小分子を含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記個体が検出可能な認知機能障害を何ら有しない、請求項 1 に記載の方法。

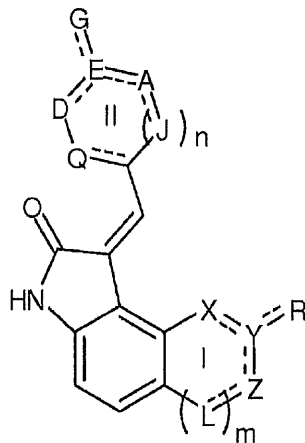
【請求項 5】

前記個体が、アルツハイマー病、パーキンソン病を有するか、あるいは、高齢である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記阻害剤が、下記の一般式：

【化 1】



(式中、

Xは、H、OH、SH、O、S、N、NH、CH、CH₂またはC=Oであり、

Zは、H、OH、SH、O、S、N、NH、CH、CH₂またはC=Oであり、

Rは、H；O、NH₂；またはOHであり、

Yは、CH₂；CH、N、NH、CまたはOであり、

Lは、H、OH、SH、O、S、N、NH、CH、CH₂またはC=Oであり、

mは0または1であり、

ただし、Lが、H、OHまたはSHであり、かつ、Xが、H、OHまたはSHであるとき、Z、YおよびRは存在せず；

ただし、Xが、H、OHまたはSHであり、かつ、Zが、H、OHまたはSHであるとき、YおよびRは存在せず；

ただし、XがNまたはCHであるとき、XはYとの二重結合を形成し；

ただし、Xが、O、S、NH、CH₂またはC=Oであるとき、XはYとの単結合を形成し；

ただし、XがYとの二重結合を形成するとき、ZはYとの単結合を形成し；

ただし、ZがYとの二重結合を形成するとき、XはYとの単結合を形成し；

ただし、ZがNまたはCHであるとき、ZはYとの二重結合を形成し；

ただし、Zが、O、S、NH、CH₂またはC=Oであるとき、ZはYとの単結合を形成し；

ただし、YがCであるとき、Rは、H、OHまたはNH₂であり、あるいは、RはOであり、かつ、Yとの二重結合を形成し；

Aは、H、OH、SH、O、S、N、NH、CH、CH₂またはC=Oであり、

Dは、H、OH、SH、O、S、N、NH、CH、CH₂またはC=Oであり、
Eは、CH₂、CH、N、NH、CまたはOであり、
Gは、H；O、NH₂；またはOHであり、
Jは、H、OH、SH、O、S、N、NH、CH、CH₂またはC=Oであり、
Qは、CH₂、CH、N、NHまたはOであり、
nは0または1であり、

ただし、Jが、H、OHまたはSHであり、かつ、Dが、H、OHまたはSHであるとき、
A、EおよびGは存在せず；

ただし、Dが、H、OHまたはSHであり、かつ、Aが、H、OHまたはSHであるとき、
EおよびGは存在せず；

ただし、DがNまたはCHであるとき、DはEとの二重結合を形成し；

ただし、Dが、O、S、NH、CH₂またはC=Oであるとき、DはEとの単結合を形成し；

ただし、DがEとの二重結合を形成するとき、AはEとの単結合を形成し；

ただし、AがEとの二重結合を形成するとき、DはEとの単結合を形成し；

ただし、AがNまたはCHであるとき、AはEとの二重結合を形成し；

ただし、Aが、O、S、NH、CH₂またはC=Oであるとき、AはEとの単結合を形成し；

ただし、EがCであるとき、Gは、H、OHまたはNH₂であり、あるいは、GはOであり、
かつ、Eとの二重結合を形成する)

を有し、また、

前記組成物がその医薬的に許容され得る塩または水和物である、請求項1に記載の方法。

【請求項7】

mが0であり、XがNHであり、YがCであり、ZがNであり、かつ、RがSHである、
請求項6に記載の方法。

【請求項8】

mが0であり、XがSであり、YがCH₂であり、ZがSである、請求項6に記載の方法。

【請求項9】

mが0であり、XがNHであり、YがOであり、かつ、ZがCH₂である、請求項6に記載の方法。

【請求項10】

mが0であり、XがNHであり、YがCであり、RがOであり、かつ、ZがNHである、
請求項6に記載の方法。

【請求項11】

mが0であり、XがC=Oであり、YがNHであり、かつ、ZがC=Oである、請求項6に記載の方法。

【請求項12】

mが0であり、XがSであり、YがNであり、かつ、ZがCHである、請求項6に記載の方法。

【請求項13】

mが1であり、XがNであり、YがCHであり、ZがCHであり、かつ、LがNである、
請求項6に記載の方法。

【請求項14】

mが1であり、XがSであり、YがCH₂であり、ZがCH₂であり、かつ、LがNHである、
請求項6に記載の方法。

【請求項15】

nが0であり、QがCHであり、DがSであり、EがCHであり、かつ、AがNである、
請求項6に記載の方法。

【請求項16】

n が 0 であり、Q が C H であり、D が N であり、E が C H であり、かつ、A が S である、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 17】

n が 0 であり、Q が N であり、D が O であり、E が C H であり、かつ、A が C H である、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 18】

n が 0 であり、Q が C H であり、D が N H であり、E が C であり、G が O であり、かつ、A が N H である、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 19】

n が 0 であり、Q が C H であり、D が C H であり、E が C H であり、かつ、A が N H である、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 20】

n が 0 であり、Q が C H であり、D が N H であり、E が C であり、かつ、A が C である、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 21】

n が 1 であり、Q が C H₂ であり、D が O であり、E が C H₂ であり、A が C H₂ であり、かつ、J が N H である、請求項 6 に記載の方法。

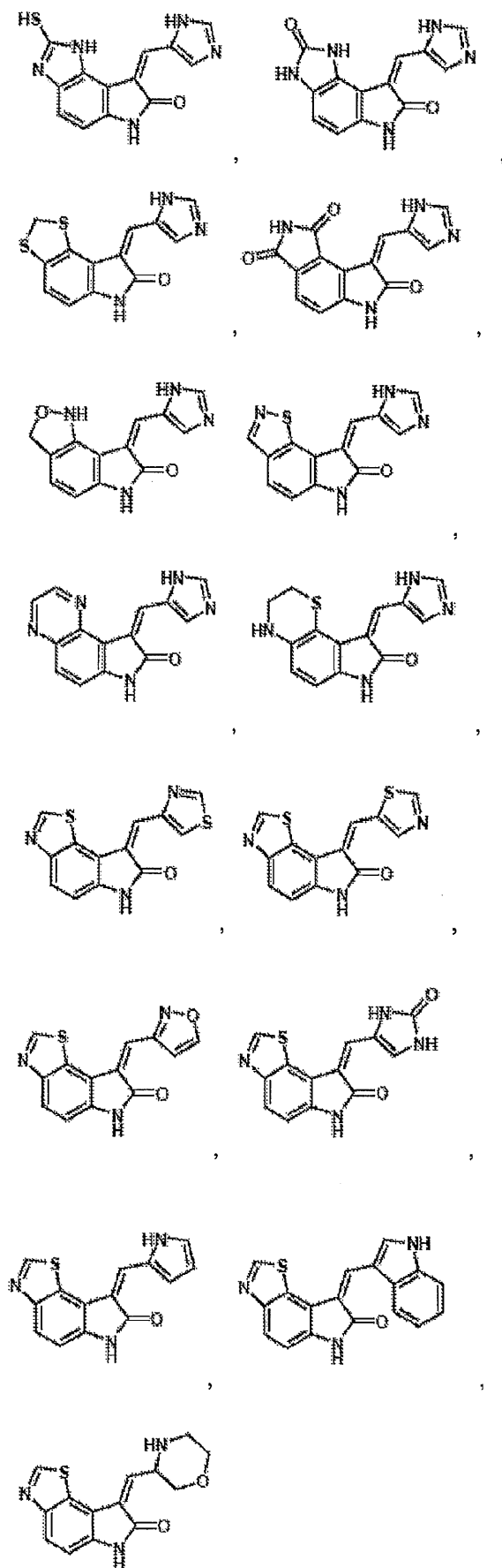
【請求項 22】

n が 1 であり、Q が C H であり、D が C H であり、E が C H であり、A が C H であり、かつ、J が N である、請求項 6 に記載の方法。

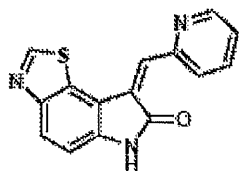
【請求項 23】

前記組成物が、

【化 2】



【化 3】



またはそれらの組合せからなる群から選択される、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 2 4】

認知の前記強化がさらに、記憶を前記個体において強化することとして定義される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 2 5】

ダウン症候群を持つ前記個体における認知を強化する方法である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 2 6】

認知の前記強化がさらに、記憶を前記個体において強化することとして定義される、請求項 2 5 に記載の方法。